

◆ 当日の進め方と論点（ねらい） ◆

◆全体テーマ

『新城中部の明るい未来をつくるために』

平成 25 年度から、市民と市役所が一緒になって考え、行動するしくみ「地域自治区制度」が導入されました。

新城地域自治区は、新城市の中心市街地を有する地域であることから、市内の他地域に比べ、日々の暮らしにおける利便性についてそれほど大きな問題意識を持っている方は多くありません。

しかし、例えば、祭礼や区の行事、商店街の状況などをみてみますと、一昔前の状況と比較したときに、寂しさを感じる方もいるのではないのでしょうか。少子高齢化や若者の地域離れといった問題により、今後ますます深刻化する恐れがあります。

これからは、実際に地域に暮らす私たちが、もっと地域に目を向け、市役所や区の役員さんにお任せするばかりではなく、まちづくりに積極的に参加できる風土を醸成する必要があります。

より多くの方に日頃感じている身近な課題や地域のこと、地域に必要と思うことなどを口に出していただき、また、他の方がどのような考え方を持っているかに耳を傾けて、意識や情報を共有し、今後の新城中部地区の課題解決や活性化について興味を持っていただきたいと考え今回のテーマを設定しました。

◆アイスブレイク『20年後の新城中部地区は？』

- ・自分や家族などの 20 年後ということで、この新城中部地区に住み続けていると仮定して、直感的にどのように感じるか。
- ・明るい or 暗い、その理由を自己紹介と併せて話し合う。
- ・会場全体で、明るい or 暗いと感じている人の割合がどの程度なのかを共有する。

参加者が日常生活の中で感じている問題の分析、どのような状態にすることが必要か、そのための課題は何かなどを考え、話し合うために、会場全体で「このままで良いのか」という危機感を持ってもらい、前向きなイメージをつくりやすくするための雰囲気をつくることをねらいとしました。

◆第1ステージ『10年後の新城中部をどんなまちにしたい？』

新城中部地区が20年後も明るい未来であるためには、10年後までに新城中部地区のまちづくりをどのように進めていくべきかを考える。

①10年後の新城中部地区がどんなまちになっていたら良いと思うか。

(ポストイットに自由に記入する。)

②記入内容をグループ化する。

③さらに思いついたことを追加する。

20年後も明るい新城中部地区であるためには、20年後から逆算して、10年後の新城中部地区がどんなまちになっていたら良いと思えるかを考える機会を設けました。

自分なら、新城中部地区がどんなまちになっていたら住み続けたいと思えるか、こうなっていれば新城中部地区は明るいだろうと思うことをグループで共有することをねらいとしました。

◆第2ステージ『未来のために3年後の新城中部を考える！』

①席替えによりグループに残った人は、第1ステージでまとめた内容を説明する。

②その他の人は、前のグループで話題になった内容を紹介する。

③第1ステージでまとめた新城中部づくりをめざしたときに、3年後までに何をしておくべきかを考える。

第1ステージ「10年後の新城中部地区をどんなまちにしたい？」に挙げられたことを実現させるためには、3年後、どのようになっているか。3年後までに何をしておくべきかを考え、未来を見据えた行動により、理想へ実現可能性を感じてもらうことをねらいとしました。

◆第3ステージ『未来のために“今”取り組むべきこと！』

- ①第2ステージでまとめたことを実現するための「課題」を抽出する。
- ②抽出した「課題」を解決するために“今”何をすべきかを考える。
※自由なアイデア（誰が、何をする）をポストイットに記入する。
- ③グループでアイデアを共有し、意見を出し合って実現可能性を高める。
- ④発表できるようまとめる。

第2ステージ「未来のために3年後の新城中部を考える！」で挙げられた3年後までに何をしておくべきかを共有し、その3年後までにしておくべきことの課題を見つけ、今から、誰が、何に取り組む必要があるのか、具体的な提案、アイデアが生まれることをねらいとしました。

◆グループ発表

- ・市長に向け、各グループで話し合った取り組み案を発表する。
- ・自治振興事務所から取り組みを実現するための資金的なしくみの活用方法などを紹介する。
- ・市長から発表や大茶話会2014に対するコメント。

各グループで考えた取り組みのうち、全市的に取り組んでいった方がよいもの、地域自治区予算をかつようしてできるもの、地域活動交付金やめざせ明日のまちづくり事業補助金の交付を受けて実施できそうなものを紹介し、取り組み提案が実現できる可能性があることを知ってもらうことをねらいとしました。